
IS 00W (インフィニット・ストラトス ダブルオーウィング)

ウィング00カスタム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 00W（インフィニット・ストラトス ダブルオーウィング）

【Nコード】

N5407Q

【作者名】

ウィング00カスタム

【あらすじ】

二つの最強の天使使いで戦う事しか出来ない少年、織斑 一夏と周りの少女達ヒロインが織成す物語である。

prologue (前書き)

まるっきり初心者です。すいません、苦情・中傷・嵐などはお断りします。

prologue

この世にISが生まれて間もない頃、とある少年に2機のISが託された。

1つ目のISは天使をモチーフにしており背中にはこの世二つしかない幻のコア”GNドライブ”を搭載されておりそれを中心に2種類の羽が大型でシールドタイプ2枚の羽が外側に有り、ブースタータイプ2枚の羽が内側に装備されており、大型のシールドタイプの羽の内側に大型のバスターライフル2丁が収めており、腰の両端の装甲にはビームサーベルが1本ずつ収められている。

両肩には回転式小型のガトリングが1個ずつ装備されている。更に頭部にも装甲が有り、両端に大型が1本ずつ、前側には片側2本ずつアンテナのように尖っているのだからで騎士の兜のようにも見える。体の上下の装甲は胸部の真ん中の装甲部分に宝石のような緑の球体が付いていてトリコロールカラーである。

下半身の装甲部分は騎士のようなタレが付けられてる。足の装甲部分は無駄の無い細身で裏には小型のブースターが付けられている。

誰もが見たらまるで天使だと思うそのISの名は”ウィングゼロカスタム”それが戦う為に産まれたISの名である。

もう一機のISも特徴が有り胸部の装甲部分がトリコロールカラーで両肩には四角の穴が3箇所空いたコーン型の物つまりもう一つの幻のコア”GNドライブ”が装備されている。両肩の装甲部分は動きやすくするためにウィングゼロカスタムよりも少し小さい。

両腕の装甲部分はウィングゼロカスタムみたいに小型のセンサーは無く代わりに武器を固定し易くするために細身な装甲になっている。

下半身の装甲部分はウィングゼロカスタムみたいにタレはなく動

きやすいようになっていた。腰の後ろにはビームサーベル2本装備されている。腰の両側には近戦・射撃戦が可能な武器GNソード？を片側に一本ずつ装備されている。足の装甲はウイングゼロカスタムと同じシンプルなデザインだが裏にはブースターが無く綺麗なボディになっている。

頭部の装甲はウイングゼロカスタムと同じVアンテナが片側に2本ずつあり耳の部分には綺麗な緑のガラスのようなので覆っている。Vアンテナの真ん中には三角形の赤い宝石のような物が付けられており文字が刻まれている。両肩の装甲部分は動きやすくするためにウイングゼロカスタムよりも少し小さい。

両腕の装甲部分はウイングゼロカスタムみたいに小型のセンサーは無く代わりに武器を固定し易くするために細身な装甲になっている。

下半身の装甲部分はウイングゼロカスタムみたいにタレはなく動きやすいようになっている。腰の後ろにはビームサーベル2本装備されている。腰の両側には近戦・射撃戦が可能な武器GNソード？を片側に一本ずつ装備されている。足の装甲はウイングゼロカスタムと同じシンプルなデザインだが裏にはブースターが無く綺麗なボディになっている。この機体から発する綺麗な粒子を誰もが見たら天使を連想するであろう。そのISの名は”ダブルオー”それがISを駆逐する為に産まれたISの名である。

そして、この2機のIS（天使）を操る少年の名は”織斑 一夏”（おりむら いちか）

prologue 2 (前書き)

追加ですいません。アセアセ

prologue 2

日本・・・春の真っ只中・・・IS学園入学式当日・・・校門・・・

私の名前は篠ノ之 箒、隣にいるのは昔転校を繰り返し心を閉ざしていた時に私を闇から救ってくれた大事な友人フェルト・グレイス、クリステイナ・シエラ、ヨーロッパからの留学で中学校の時に出会い、時間が経って行き、何時の間にかお互い大事な親友になっていた。フェルトの髪の色は生まれ付きで気にしてないという。

箒「フェルト、クリステイナ、これから三年間宜しく頼む」

フェルト「ええ、お互い頑張ろう箒さん、クリス」

クリステイナ「うん、頑張ろう！」

その時、三人が海を眺めていたら大きな鳥の様なものが視界に入った・・・、遠くて分からないが綺麗な青色の翼が見える・・・、羽ばたきながらまるで踊っているように見える・・・、三人が顔を見合せながら言った。

クリステイナ「ねえ、あれなんだろう？鳥にしては綺麗ね。」

箒「綺麗だな、天使か？」

フェルト「緊張しすぎて幻だったたりして。」

三人がもう一度さっきの場所を見たがそこには何も無かった・・・

クリスティナ「あれ？いない」

箒「幻だったのか？」

フェルト「でも綺麗だったね」

その後、三人は学園に向かって歩いて行った。まさかこれからその天使に出会える事になるとは誰もが予想しなかった・・・

n e x t

prologue 2 (後書き)

感想待ってます。

1 天使が転入（前書き）

IS 学園校門前・・・そこに15歳位の少年が校門の手前で立ち止まり学園を眺めた後また歩き出した・・・

OP「daybreak's bell」by「arc
n ciel

1 天使が転入

IS学園・・・校長室

校長らしき女性が高級なソファに座り教頭がいれた紅茶を少し飲んだ後、木製のテーブルに置き転入生のPR用紙を眺めていた・・・

校長「今回の転入生は大物が来ましたね、しかも男子で織斑先生の弟、小さい頃から表向きは極普通の学生をしていて、裏では織斑先生の英才教育でISをしかも専用機2機を自分の物にし、実力は代表候補生を超える力が有り数年の歳月が経っても腕は鈍っていないなんて・・・、今年のIS学園は大きく動きそうですね・・・」

PR用紙を木製のテーブルに置いた後、窓から海を眺めながらにこりと柔らかい笑みを見せる・・・

入学式の中・・・職員室：織斑先生の机 > 一夏の制服はIS学園の制服をCB風にアレンジしたものです>

一夏side

一夏（IS学園に入学する予定だと思っていたが・・・、まさか転入になるとはな・・・、しかし・・・、校舎はまるで未来の軍事基地に見えるのは何故だろうか・・・？）

どーでも良い事を思いながら俺は、出席簿（多分これから転入するクラスだと思うが・・・）をチェックする千冬姉に目を向ける・・・、相変わらずスーツがよく似合う・・・、ふと千冬姉が俺に申し訳なさそうな表情をみせる・・・

side end

千冬「すまないな、本当は入学させたかったのだが、入学とIS登録の手続きが遅くなってしまつて予定が変わつてしまつた。」

千冬（一夏、すまない・・・ズーン）

一夏「構わない、ISを使える男子が現れたと言う情報が急に出れば対応にも遅れが出てしまふ、だから千冬姉が謝る事ではない。」

千冬「そうか・・・、優しいなお前は。」

千冬（一夏・・・）

出席簿のチェックしながら優しい笑みを見せる。

一夏「俺は優しくない、ただ思つた事を口にしただけだ。」

千冬「そう自分を謙遜するな・・・、さてと、お前のクラスは1-1だ、私が担任を務める、副担任は山田先生だ、何か用が有れば私に聞くと良い。私が居ない時は山田先生に聞いてくれ。」

千冬（よし、2人つきりなるための時間の確保は成功だ、しかし山田先生は上手く行っているか心配だな・・・）

一夏「了解、後質問が有る。」

千冬「何だ？」

千冬（おお、早速だな、何だ何だ？）ワクワク

一夏「寮の事何だが俺の部屋はどうなる？」

千冬「その件は後にしよう、今は時間がない、よし、行くぞ」

千冬（なんだ部屋の事か・・・ズーン・・・、私は一夏と同室になりたかったのだが、周りから反対の嵐だったな・・・、だが諦めんぞ！）

一夏「ああ」

出席簿のチェックが終わって千冬姉に付いて行き1-1の教室の扉の前で千冬姉に「お前は此処で待っている、呼んだら入って来い」と言われ扉の前で待機した。すると教室から千冬姉の自己紹介&スバルタ宣言をしたとたんいきなり黄色い声が聞こえてきた。

「キャーーーーー！！！」

一夏（な・・・何だ！？）

女子A「千冬様、本物の千冬様よ！」

一夏（偽物だったらどうなるんだ・・・）

女子B「ずっとファンでした！」

女子C「私、お姉様に憧れてこの学園に来たんです！北九州から！」

女子D「あの千冬様にご指導いただけるなんて嬉しいです！」

女子E「私、お姉様の為なら死ねます！」

一夏（それは本気か・・・？）

教室から千冬姉の呆れた声が聞こえてくる。

千冬「・・・毎年、よくもまあこれだけ馬鹿者が集まるものだ。感心させられる。それとも何か？私のクラスにだけ馬鹿者を集中させてるのか？」

一夏（人気者は辛いな・・・）

女子F「きゃあああああっ！お姉様！もっと叱って！罵って！」

女子G「でも時には優しくして！」

女子H「そしてつけあがらないように躡して〜！」

一夏（・・・クラス・・・間違えたか・・・？）

千冬「とりあえず静かにしてくれ、耳にくる。」

千冬（こいつらはどんな教育を受けてきたんだ・・・？）タラリ

千冬姉の注意のお陰か教室から騒がしい女子達の黄色い声がいきなり消えた。

一夏（流石は元軍事教官・・・）

千冬「それで今日は転入生を紹介する、入って来い。」

女子Ⅰ「転入生？」

女子Ⅱ「入学の日？」

教室から千冬姉に呼ばれて扉を開けて教室に入った瞬間にクラス全員の視線が教室に入った一夏に集注した。

一夏（凄い視線だ・・・）

一夏は教卓に向かいながら周りを一瞥した、すると数年ぶりに会う見慣れた幼馴染の顔を見つけた。篠ノ之 箒である。彼女は一夏と一瞬目が合ったが顔を真っ赤にして直ぐに背けた・・・

一夏（どうしたのだろうか・・・？）

内心思いながらも眼鏡をかけた女性（この女性が山田先生か・・・）
（と思いながらの少し離れた横に止まり皆と向き合った。

山田先生「に、ニュースで知ってるかも知れませんが転入生の織斑 一夏君です。」

山田先生（イケメン過ぎて惚れそうです！！）

千冬（ムッ、今ライバルが増えた気が・・・）

一夏「転入生の織斑 一夏だ、宜しく頼む。」

一夏（何故山田先生まで顔が赤いのだろうか・・・花粉症だろうか？）

シーーン・・・

山田先生「・・・そ・・・それだけですか・・・？・・・」

山田先生（もっと知りたかったのですが・・・、残念です・・・。
ズーン

一夏「ああ・・・」

一夏（何故暗くなるのだろうか）

シーーン・・・

一夏（自己紹介で何か可笑しかったか・・・？）

「き・・・」

一夏（木・・・？）

女子全員「きゃああああ！！！！！！」

一夏「！？」「ビクッ！

いきなりの黄色い声に耳を塞ぐ織斑姉弟と山田先生、鼓膜が破れ
そっだ。

女子K「男子でしかもイケメン！」

女子L「生だと正に美形！」

女子M「格好良すぎる！」

女子O「日本IS界の王子様！！」

騒いでいて何を言っているか聞きずらかったが、千冬が注意して静かにさせた。

千冬「静かにしろ。織斑は教卓の手前の席だ。」

千冬（私の一夏は誰にも渡さんし指一本触れさせるものか！それと、一夏は私の王子様だ！）

一夏「分かりました。」

座った後でも周りからの熱い視線が止むことは無かった・・・、興奮する女子達の中である1人の少女も含め・・・

第（一夏・・・、6年ぶりだがその冷静さは変わらないな、し・・・しかし、前より更に格好良くなっているではないか！ますます私の嫁に・・・じゃなかった、ますます私の婿にさせたくるではないか！って何を言っているのだ私は！）ソワソワ

千冬「さて、SHRは終わりだ。諸君らにはこれからISの基礎知識を半月で覚えてもらう。その後実習だが、基本動作は半月で体に染みこませろ。いいか、いいなら返事をしろ。よくなくても返事をしろ。」

千冬（またライバルが増えた気が・・・）

クラス全員「はい！」「了解」

一時間目ＩＳ基礎理論授業が終わって今は１０分間の休み時間・
・、俺は少しでも気を紛らわすために教科書を開いてリラックスしているにも関わらず廊下には他クラスの女子、２、３年の先輩らが詰めかけている。

『あなた話しかけなさいよ』

『ちよつとまさか抜け駆けする気じゃないでしょうね？』

といった感じの雰囲気教室中、いや校内全体に広まっていた。

一夏（いくら珍しいからとはいえいい加減やめて欲しい・・・、俺は見せ物では無いのだが・・・）

一夏が気を取り直して教科書に目を向けたと同時に声をかけられ、そっちに視線を向けると箒が目の前に来ていた。

箒「一夏・・・」

一夏「何だ・・・」

箒「そ・・・その・・・、ちよつと良いか？」モゾモゾ

一夏「構わない・・・丁度外に出ようと思っていた所だ・・・」

箒「そ．．．そうか、なら屋上に行こう。」

箒（や．．．ヤッター！夢ではないだろうな！？）¥（＾０＾）
ノバンザーイ！

一夏（．．．なんとか抜け出せそうだ．．．）

俺は箒と共に屋上へ行くために教室に動いた、廊下にいる上級生や同学年の他クラスの大勢の女子達がまるでアイドルや有名人が通るかの如く道を空けてくれた．．．

屋上．．．

一夏「．．．」

一夏（眺めがいいな．．．、海を見てると心が落ち着く．．．）

箒「．．．」ソワソワ

箒（そういえばどんな話題をすれば良いのか忘れてた！！うー
ーん、何か話さなければ！）アセアセ

すると突然、一夏から話題を始めた。

一夏「前の新聞の記事のスポーツで全日本剣道大会の記事にお前の名前が載ってたな．．．、おめでとう．．．」

箒「あ．．．有難う．．．ってなんで一夏が新聞なんか読むんだ？」

第「ほ．．．褒めてくれた．．．う．．．嬉しいぞ！」バンザーイ！

一夏「世の中の情報を知る為だが．．．いけなかったか？」

一夏（何故顔が赤いんだ．．．？やはり今日は花粉症の確率が高いのだろうか．．．？）

第「べ．．．別にそうとは言っていない！」

一夏「そうか．．．」

一夏（何故そこで怒るのだろうか．．．？）

第（いかん！遂怒ってしまった！どうしよう）アセアセ

そこでタイミング良く二時間目が始める予鈴がなった。

一夏「教室に戻ろう．．．」

第「あ．．．ああ」

教室に戻る一夏達、しかし、そこには誰も予想もしなかった事が起きる。

n e x t

1 天使が転入（後書き）

ED「罨」by the back horn

次回予告

IS学園に入学し転入した天使に英国の不敗の女騎士が決闘を叩き込む・・・

次回 インフィニット・ストラトス・ダブルオーウィング

” 天使の生活 ”

それは・・・物語の始まり。

キャラクターの特徴をだすのがすごく悩みました。
一夏の目は刹那と同じ赤目です。

主人公IS設定（前書き）

皆さん長期間遅れて誠に申し訳ありませんでした。

主人公IS設定

エクシア コアナンバー：0000 （ダミーコアナンバー：100） 初代世代型IS

一夏が独自で作り上げた二機の内の一つのISであり、接近戦向けに作り上げたIS、見た目は第三世代に見えるが、実は初代世代型ISであり一世代から四世代の元になったISなのである。しかし、完成直後に一夏が独自の判断で設計図データを処分したため一夏しかエクシアの本性を知らない。コアは一夏が独自発想で作り上げた、“GNドライブ”と呼ばれる特殊なコアで二つ完成しその内の一つを搭載、但し一夏がリミッターを掛けて要するためシールドエネルギーは通常のISと同じで機動性は第三・第四世代並である、リミッターを解除すると機動性は最高で十数世代を軽く上回る、従来のISと違うのはまずスリムで無駄の無い装甲で、従来のISのようにアーマー&フッド武装パーツではなく、より動きやすいように設計されている、エクシアには装備変更が有りセブンスード・アヴァランチ・アヴァランチD・GNアーマータイプE&D・リペア（R）2の五つに変更可能であらゆる戦闘が可能。また、武装一覧にGNビームピストルが追加されている。この機体には謎のシステムが封印されている。

従来の装備（セブンスードモード&ツインピストル）

GNソード×1 GNダガー×2 GNサーベル×2 GNバルカン×2 GNシールド×1・GNロングブレード×1・GNショートブレード×1・GNビームピストル×2

アヴァランチ

アヴァランチユニット×1・GNコンデンサー×2・GNロング
ブレード×1・GNショートブレード×1

アヴァランチDモード（ダッシュモード）

アヴァランチユニット×1・GNコンデンサー×2・GNバーニ
アユニット×2・GNクロー×2・GNビームサーベル×2・GN
ロングブレード×1・GNショートブレード×1

GNアームズ type E （近接戦闘型）

大型GNソード×2・大型GNキャノン2・GNビームガン×2・
GNクロー×2・GNフィールド

GNアームズ type D （砲撃戦闘型）

GNツインライフル×1・大型ミサイルコンテナ×1・大型GN
キャノン×2・GNクロー×2・GNフィールド

ウイング コアナンバー：0000？ （ダミーコアナンバー：
101） 初代世代IS

一夏がエクシアと同時に作り上げたもう一機、世界で唯一飛行形態への可変が可能でこの機体も初代世代型ISであり可変システムを除いて一世代から四世代の元になったISなのである。もう一機のGNドライブを搭載しており、エクシアと同等のスペックを持つがリミッターがかけられているため機動性は第三・第四世代並であ

る。特徴なのが“飛行形態可変システム”と言うウイングしかない特殊なシステムが搭載されており“バードモード”と呼ばれる。バードモード形態に可変する事でスピードは通常のISを凌駕する。勿論ウイングにも装備変更が有り、バスターライフルが装備されている。また、この機体には”Ver^{バジョン}移行システム”が組み込まれていて二種類ある、“Ver^{ノーマル}・N”・“Ver^{カトキ}・K”と呼ばれた一夏だけが作り上げたオリジナルシステムである。また、バスターライフルはのVer移行によって変化はないがシールドの内側と右腕にライフルの弾奏が追加される。また、両肩にあるマシンガン（Ver・N）が回転式バルガン（Ver・K）に代わる。従来はVer・Nである。またバスターライフルの他にツインガトリングガンを使用する。

この機体には”Z・E・R・O・System”^{ゼロシステム}と呼ばれたシステムが搭載されており正式名称は”Zoning and Emotional Range Omitted System（直訳すると『領域化及び情動域欠落化装置』”とは、分析・予測した状況の推移に応じた対処法の選択や結末を搭乗者の脳に直接伝達するシステムで、端的に言うと、勝利するために取るべき行動をあらかじめ操縦者に見せる機構である。

高性能フィードバック機器によって脳内の各生体作用をスキャン後、神経伝達物質の分泌量をコントロールすることで、急加速・急旋回時の衝撃や加重などの刺激情報の伝達を緩和、あるいは欺瞞し、通常は活動できない環境下での機体制御を可能とする。更に外部力メラ、センサーによって得た情報を、操縦者自身の視聴覚情報として伝達することも可能である。

その機能は同時にある致命的な欠陥も露呈させることとなった。そもそも、本システムが提示する戦術とは、基本的に単機での勝利を目的としたもので、目的達成のためであればたとえ搭乗者の意思や倫理に反する行為も平然と選択する。状況によっては操縦者自身の死、友軍の犠牲もいとわない攻撃など、非人間的な選択が強要さ

れることもあり、これが操縦者の精神に多大な負担をかける。そのため、ただゼロシステムを使うだけでは、システムに命令されるがまま暴走するか、もしくは負荷に耐え切れず精神崩壊・廃人化を招く恐れがある。そのため、このシステムを使いこなすには、自身の感情をコントロールし、かつシステムの命令を押さえ込むだけの強靱な精神力が要求される。但し、このシステムは一夏だけが使いこなせる。

Ver・N ノーマル

バスターライフル×1・シールド×1・マシンガン×2・ビームサーベル×1

Ver・K カトキ

バスターライフル×1・シールド×1・バルガン×2・ビームサーベル×1・弾奏×6

その他

ツインガトリングガン×1

また、制服のままISを使用することが可能で、二機のリミッターを解除すると”フルスキン全身装甲”になる。何故か一夏の目が何の関係無しに光るが原因は不明である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5407q/>

IS 00W（インフィニット・ストラトス ダブルオーウィング）

2011年9月28日22時55分発行